

編集後記

■多くの尊い命が失われ、まだまだ復旧の目途のたない3月11日の未曾有の大震災、社会について、自然について、人間について、生命について、あらゆることを根本的に見つめなおす必要性を改めて感じました。皆様のご家族、生活・研究の場はご無事だったでしょうか。原発問題もあり、科学・技術と社会の関係性についても多くの課題が浮かび上がってきています。被災された方々、避難所生活を送られている方々、さらに昼夜を問わない過酷な復旧作業に従事されている方々の健康面を考えますと、時間生物学・睡眠医学にも直接的間接的に役割に立つ知恵が蓄積されています。実際に、何人かの会員の方々が熱心にインターネットを通じて睡眠に関する情報などを提供して下さっており、改めて感謝申し上げます。梅雨や猛暑、台風の季節を迎えつつあり、被災地の状態が大変心配ですが、一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

■今号は、異例の多さとなった奨励賞受賞論文3編と力作の総説2編を掲載いたしました。また、仙台で被災された太田英伸先生（当時東北大学）にご無理を申しあげ、体験記を急遽執筆していただきました。色々な教訓が込められております。それぞれに大変興味深く、また貴重な内容で、執筆者の先生方に感謝申し上げます。

■クオリティの高い今号の表紙の原画は、オーストラリアとロンドンを基盤に、医学/生物学と文化・社会を巡って意欲的な作品を発表している気鋭の現代美術家、ヘレン・パイナー Helen Pynorさんにご提供いただきました。内臓という、ともしればおどろおどろしい描画の対象になりそうな器官とそれにまつわる人間の営みや想念を巡って、静謐な詩情と理知的な分析と卓越した表現力で捉えなおし、色々考えさせられつつも視覚的にもとても妖しく美しい Biological art作品、興味深い「作者のことば」と合わせてご堪能ください。

■今年から、時間生物学会の役員が改選となり、近藤孝男理事長、海老原史樹文事務局長のもとで新体制に移行しました。今まで理事長を務めてくださった本間研一先生、事務局長を務めてくださった柴田重信先生に改めて感謝申し上げます。これに伴いまして、編集局もだいぶメンバーが入れ替わりました。6年に亘って編集委員長を務められ、本誌の質的向上に大きく貢献していただきました富岡憲治先生から、不肖私（岩崎秀雄）がバトンを引き継ぐことになりました。編集に関わる多くの改善を実行に移された大ベテランの富岡先生の後任をお引き受けするのは、まったくの若輩者の私には誠に恐れ多いことですが、ぜひ学会の顔としての学会誌のレベルを維持しつつ、よりよいものにしていけるよう精進したいと思います。と言いつつ、早速私の不手際から発刊が通常よりだいぶ遅れ、皆様の手元に届くのが遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。会員の皆様には、今後とも一層のご協力をお願いすることになるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

時間生物学 Vol. 17, No. 1 (2011) 平成23年6月30日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院 生命農学研究科
応用分子生命科学専攻 海老原史樹文研究室内
Tel : 052-789-4066

(編集局) 〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2
早稲田大学先端生命医科学研究センター
(TWIns) 1F 岩崎秀雄研究室内
Tel : 03-5369-7317 Email : hideo-iwasaki@waseda.jp

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部